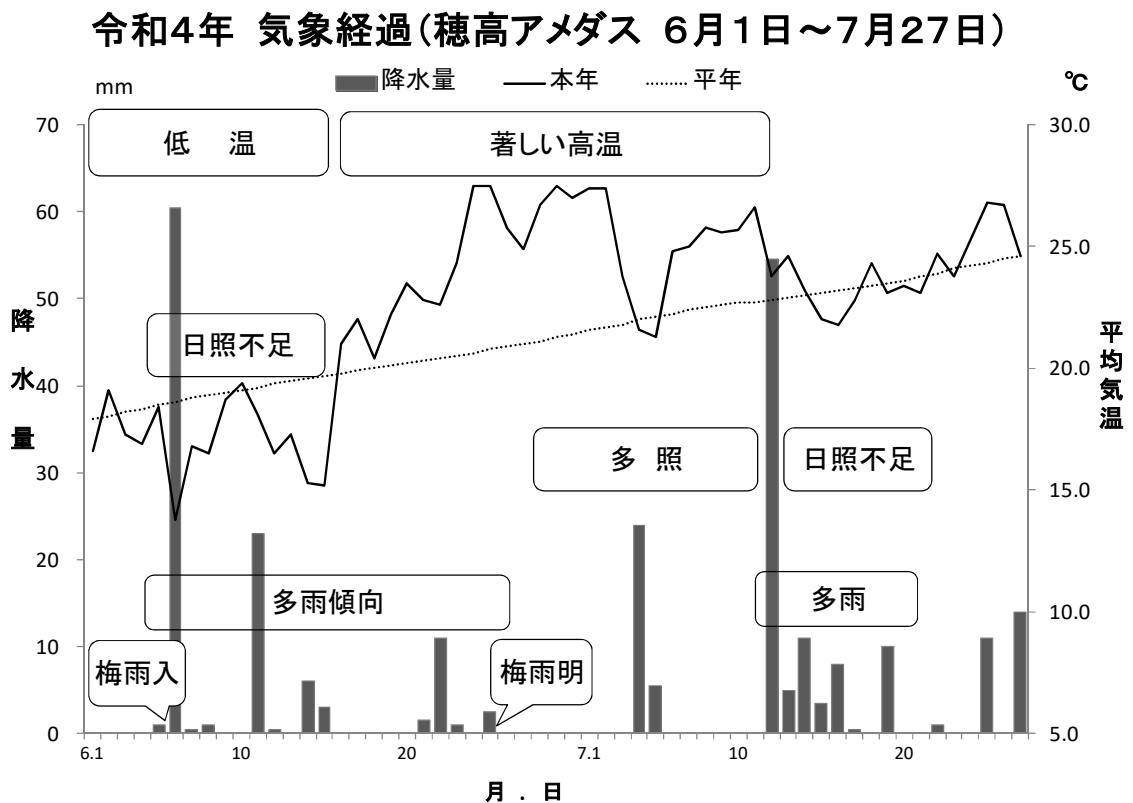


令和4年 作物技術普及情報 第14号 (水稻の生育状況・収穫開始予測等について)

1 気象状況

7月12日以降は大気の状態が不安定で、局地的に雷を伴う大雨で降水量が多くなっています。気温は概ね平年並みですが、今後の気温は平年より高温が予想されています。



2 水稲の生育状況について

6月下旬以降の著しい高温の影響で、生育はかなり進んでいます。定点圃場の調査では、あきたこまちの出穂期は7月24日で平年より4日早でした。コシヒカリは8月1日頃（平年より8日早）に出穂期を迎えると予想され、出穂が最も早かった平成30年より早まると思われまます。

7月28日現在、現地の平坦地の早生品種（あきたこまち、美山錦等）は穂揃い～傾穂期始期です。4月末～5月初旬植のコシヒカリは出穂期、5月上旬植のコシヒカリは出穂始めを迎えています。

出穂が早まっているため、成熟期も平年よりかなり早まることが予想されます。

安曇野市 豊科 標高550m 5月15日植(稚苗)の場合 7月27日現在

コシヒカリ 稚苗	DVI	幼穂長 2mm の実測日	出穂期 の予測日	成熟期 の予測日	あきたこまち 稚苗	DVI	幼穂長 2mm の実測日	出穂期 の実測日	成熟期 の予測日
本年	0.903	7月10日	8月1日	9月14日	本年	1.023	7月3日	7月24日	9月3日
平年	0.846	7月16日	8月9日	9月23日	平年	0.955	7月6日	7月28日	9月8日
平年差		平年より7日早		9日早	平年差		平年より4日早		5日早

3 水稲の刈り取り開始予測

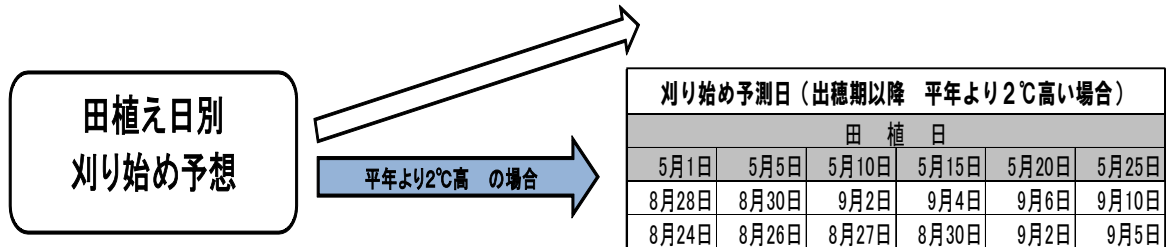
出穂がかなり早まっており、平坦地・5月初旬植・コシヒカリの刈り取り開始時期は9月初旬からが予想されています。また早生品種の刈り取り開始時期は8月25日頃からが予想されています。

今後も高温が予想されていますので、刈り取り開始予測の「高温版」も活用いただき、施設稼働の計画や収穫計画にご活用ください。

標高別・移植日別の詳細は「7月27日現在の水稲刈り始め予測（平年並み版、高温版）」をご覧ください（ホームページにも掲載いたします）

【表は豊科定点圃場:標高540mの推定値(8月1日現在)です】

コシヒカリ 標高550m	苗質	推定出穂期						刈り始め予測日(出穂期以降 平年並みの気温)					
		田植日						田植日					
		5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
稚苗	7月26日	7月28日	7月30日	8月1日	8月3日	8月6日	9月2日	9月4日	9月6日	9月9日	9月11日	9月15日	
中苗	7月22日	7月24日	7月25日	7月28日	7月30日	8月2日	8月28日	8月30日	8月31日	9月4日	9月6日	9月10日	



4 葉いもち病、カメムシ対策について

- 7月12日以降は降水量が多く、気温や湿度が高い状況が続いており、今後は注意が必要な気象状況になっています。

葉いもち病感染好適条件の判定でも、7月15日以降、県内の広い範囲で感染好適条件が出現しており、病害虫防除所からは、いもち病が多発する恐れがあるとして、いもち病に関する注意報(7月20日付け)が出されました。

常発地帯・多発したことのある圃場、苗箱剤の未使用圃場等では、圃場をよく観察していただき、発生状況によっては防除対策を講じてください。特に昨年穂いもち病が発生した圃場は要注意です。

- カメムシ防除として以下の点にご留意いただき、防除の徹底をお願いします。

(1) 本田防除が最も重要です。散布適期は出穂10日後です。粒剤は効果の発現まで時間がかかるので、出穂7日後を目安に散布してください。

今年は出穂期が早まっていますので、防除のタイミングを失ないようにお願いします。

この防除でアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の本田定着及び幼虫の増加を防止し、アカスジカスミカメの成虫の本田侵入を防止します。

- (2) 斑点米カメムシ類は、稲の出穂以前は畦畔や休耕田等で生育・増殖します。畦畔の草刈はすでに実施されていると思いますが、出穂期以降の草刈は水田にカメムシを追い込むので避けてください。

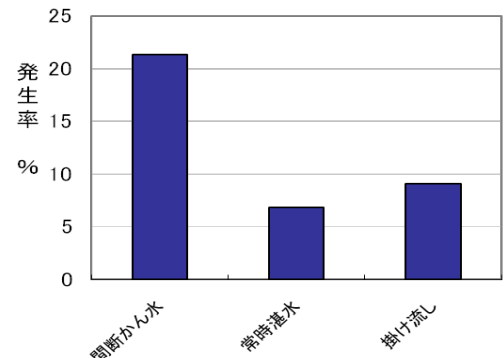
5 高温登熟障害対策について

向こう1ヶ月の気温は「平年より高い」と予想されており、高温登熟障害対策に注意はらう必要があります。

これからのポイントは「出穂前後3週間の湛水」です。出穂から2～3週間が高温で経過（高温登熟）すると、白未熟米や胴割米の発生しやすい体質になります。

高温登熟による白未熟米、胴割米の発生防止のため、出穂前後3週間は、圃場に水が入っている状態としてください。

水路に水が十分あり、生育が遅れる恐れがなければ、昼～夕方に4時間程度の掛け流しをご検討ください。



水管理と白未熟の関係(2010年、農業試験場)
注) 品種あきたこまち。発生率は水口区、水尻区の平均。
湛水処理は出穂前後2週間の常時湛水、掛け流しは出穂後2週間の掛け流し。

土壤水分を確実に保持し、根の老化防止と健全な登熟をはかるため、水管理の徹底をお願いします

6 大豆の干ばつ対策について

現在、小麦後大豆は概ね5葉～1葉期です。生育は概ね順調で、湿害圃場も比較的少ない模様です。

これから干ばつの影響を受けやすい開花期を迎えるので、葉のしおれに注意し、しおれが目立つ場合、入水可能な圃場では灌水を実施するようにお願いします。

灌水にあたっては、以下の点に注意下さい。

- ・ 灌水は、ほ場の一部で上位葉の反転が始まったら行う。
- ・ 灌水は、葉数が5葉以上に生育した圃場で行う（生育量が不十分な場合は湿害の恐れがあるので、生育が進んでからかん水する）。
- ・ 灌水は、用水が十分にあり、茎疫病等の立枯れ性病害が発生していない圃場で行う。
- ・ 灌水にあたっては、ほ場周囲の額縁明渠や補助明渠、大豆の畦間等を活用し、水が速やかに圃場に行きわたるように行う。
- ・ 圃場全体が滞水するような灌水は、茎疫病の発生を助長することがあるので、圃場の3分の2程度に水がついたら、水を止め、滞水しないようにする。
- ・ 灌水は、昼間の暑い時期は避け、夕方以降に入水する。

また、今後の天候によっては、まとまった雨が期待できない状況になることも考えられます。

その場合は、葉がしおれていなくても、水分ストレス回避のために灌水した方がよいと思われますので、ご検討下さい。

6 そばについて

平坦地でも、7月末から播種作業が始まっています。そばも湿害に極めて弱いので、必ず湿害対策を行うようにお願いします。注意点は前号の技術情報をご参照下さい

松本農業農村支援センター 技術経営普及課
技術経営係 谷口 岳志
電話 0263-40-1945 FAX 0263-47-6594
e-mail taniguchi-takeshi@pref.nagano.lg.jp